

学校歯科治療調査

検診後の治療率 49.8%

「永久歯のう歯14本」など口腔崩壊事例多数

昨年10月、毎日放送のニュース番組「VOICE」で「歯科医院に行けない子ども」むし歯急増の陰に経済格差が放送された。協会が常任幹事を務める大阪社会保険推進協議会で「子どもたちの歯科治療の実態についての調査」が提案され、協会が府内の全公立小学校に対し「学校歯科治療調査アンケート」を5月実施した。156校から回答があり、口腔崩壊事例などが多数寄せられた。

治療必要でも半数が受診せず

調査は、アンケート形式で大阪府内の公立小学校1017校に送付し、5月中旬から6月末までの約1カ月半で実施した。156校から回答を得た。回答率15.3%だった。

設問1では、2011年度の①歯科検診の受検人数②そのうち治療が必要と診断された児童数③治療完了または治療中の児童数——を聞いた。回答があった156校で学校歯科検診を受けた児童の総数は6万9721人で、治療が必要とされた児童数は2万3224人と全検診受検児童の33.3%だった。このうち治療を完了、または治療中の児童が1万156

5人で49.8%だった。つまり半数の児童は必要な治療に行っていないか、行けていないといふことである。治療率が、最も低い学校は11.8%、最も高い学校で92.7%だった。ただし、学校歯科医による診断の違いや治療

報告を出さない児童がいるなどの理由から単純に結論は出せない。だが、少なくとも学校歯科医が治療を必要と診断しているにもかかわらず、歯科医院を受診し

設問2では、「経済的な理由による口腔崩壊状態の児童に出会ったことがあるか」を尋ねた。61人の養護教諭から72件の口腔崩壊の事例が寄せられた。これは全体の

回答数の39.1%にあたる。そのうち口腔崩壊の原因が「経済的理由がどうか不明」なのが19件あった。

生活保護や就学援助で受診時に窓口負担が発生している「など、食事すら困難ではないかと予想される事例や乳歯が全部むし歯などの事例も多

養護教諭の4割 口腔崩壊に遭遇

ない、または受診できない児童が半数もいること

は、非常に驚くべき結果であった。

生しない事を理由に「経済的理由ではない」との回答をいただいたが、「生活保護や就学援助を受けている」などの貧困家庭については、「経済的な理由」と判断した。

「永久歯のう歯14本（前年度12本）」「前の歯は真っ黒で歯の動きをしていない」「子どもが学校で何度も歯の痛みを訴えている」など、食事すら困難ではないかと予想される事例や乳歯が全部むし歯などの事例も多



口腔崩壊状態の症例（上）8歳、（下）9歳のいずれも男児
写真提供 副島之彦氏（門真市）

まず医療費助成を義務教育まで拡大

学童期の健全な発育のためには、口腔内の健康を維持・増進することが

欠かせない。必要な歯科治療を受けられない児童を無くすために直ちに対策が必要である。

まず窓口負担を軽くする。生活保護や就学援助を受けている家庭は窓口負担が無料になるが、圧倒的に多くの児童が窓口で3割を負担する。各自

児童や保護者の口腔内に対する意識を高めることについては、特に乳歯のう蝕や抜歯が顎骨や永久歯に与える影響などについて学ぶとともに、給食後の歯みがきタイムや歯科医院への定期的な受診を促すことが大切である。

口腔崩壊に出会った事例

- 永久歯がほぼむし歯。ネグレクト気味の家庭。前歯もとれてしまいました。
- 母子家庭で兄弟が多い家庭で、兄弟全員むし歯10本近くあった。
- 兄弟（6人共）永久歯、乳歯（乳歯は生えている歯すべて）、母親も前歯が歯の根しか残っていないような状態で、ネグレクトにあたるとして、行政の手をかけても、続けて歯医者に行かない。
- 一人で、むし歯が10本程あり、治療を勧めたが保護者は病院に行こうとしない。ほったらかしになっているため子どもが学校で何度も歯の痛みを訴えている。
- 永久歯のう歯14本（前年度12本）、歯肉歯垢は2、不正咬合2の状態の治療したことは一度もない児童がいます。歯に関しては何度警告を出しても治療には行ってもらえませんでした。
- 乳歯のう歯12本、永久歯3本、前の歯は真っ黒で歯の動きをしていないように思った。歯が痛いとお母さんに訴えても治療には連れて行ってもらえない。
- 就学援助が認定されるまで、むし歯があるにもかかわらず放置していた。口をあけると真っ黒であり、痛みも感じていないようであった。
- 現在、中1の女子生徒が小1で入学してきたとき、下の奥歯が左右共に2本ずつ歯の根しかなくサホライドで処置してあった。毎年歯科検診を勧め、歯みがき指導を行う。卒業時にはむし歯なし。現在、小1の女子で乳歯11本が未治療のむし歯。小4の女子で低学年の時より歯科受診1度もせず虫歯は7本。小5の女子で前歯以外全部虫歯。
- 学校医療券を渡しているのに、歯科治療に関する医療費の負担はないが、母子家庭で母親が勤めにでているため、病院に連れて行くことや毎週通院することができず、そのまま放置されている。兄弟そろってう歯が15本以上ある。
- 乳歯がほぼ全てむし歯。むし歯がひどくなりすぎて、歯が欠けていたり、少しふれただけで、かけてしまう
- 昨年度の1年生で、2、3名、上の歯がほとんどむし歯という人がいました。お母さんはほったらかしというわけではないですが、母子家庭で働いていて忙しい。

全国的には、医療費助成が中学校卒業までという流れにあり、子どもたちが安心して歯科治療を受

総合的な対策が必要である。特に経済的な問題を解決する抜本的な貧困対策が求められる。

紙面へのご意見や投稿記事などをお寄せください。掲載させていただいた場合は、図書カード3千円分を進呈いたします。（郵送やファクスでお寄せください）

サマーセミナー2012

歯科医師は橋下「維新の会」に国政を託せるか？

日時：8月26日(日)午前10時～、会場：M&Dホール、会費：無料

【午前の部(午前10時～正午)】

★ひろがる内部被曝と大阪原発再稼働
—関西、いまそこにある危機

【講師】 矢ヶ崎克馬氏(琉球大学名誉教授)

【ランチオンセミナー】

・報酬改定は医院経営に資するか
—診療報酬改定アンケート分析

【講師】 小山榮三氏(協会政策部員)

【午後の部(午後1時～3時)】

★橋下「維新の会」の国政進出で
歯科医療・医療はどうなる？

【講師】 森裕之氏(立命館大学教授)

・生活保護バッシングを考える

【講師】 矢部あづさ氏(協会政策部員)

※午前午後通し参加の方には弁当をご用意します

歯界

大戦後67年を経た。つまり現役世代はすべて戦後生まれである。終戦の日にはポツダム宣言を受託した8月14日でも、翌15日の玉音放送でも、降伏文書に調印した9月2日でもない。

だが、全国土、全国民を巻き込んだ未曾有の大事件の記憶はまだ未消化で、日本人の栄養となつてその未来進路の指針になっていない。

それどころか、目の前の些事に追われ、過去の巨大な人災から得た貴重な課題が薄れ、形式的なセレモニーとして残るに留まっている。

時の流れは逆行しない。だが類似は多々あり、変動の振幅が小さい停滞と知らぬ間に世が一変する大振幅を繰り返す。

元素の周期律も、やらと増えてきた同位元素も知らぬ大衆が原発反対の大運動を起こしている。知識は貧弱な大衆でも、情報を隠蔽したり、歪曲したりする体制側の胡散臭さを嗅ぎ取る能力が健在なのは、大戦が膨大な犠牲を伴いつつ、日本国民に残した貴重な財産である。